

第2期北海道スポーツ推進計画骨子素案に対する意見

項 目	意見概要
全体について	<p>・「人づくり」の中にある「郷土愛の醸成」は他の都府県にない項目ではないか。これこそ北海道の次の150年につながるキーワードと思う。また、札幌冬季パラオリを明確に柱に入れたことは、道の本気度と道民へのアピール度が増す。</p> <p>これをどう道民に伝えるか。メディアによる情報提供はもちろん、機会あるごとに発信すべきで、お金をかけない方法でロゴ等の作成や、作文募集、市町村対抗駅伝など提案できれば、一層道民への理解が深まると思う。</p>
障がい者スポーツに関して	<p>○方向性の見えない強化方法（知的障がい分野）</p> <p>・長野パラリンピックでは、指導者が知的障がいのある方と接したことが少なく、コミュニケーションをとれなかった。</p> <p>○生活と競技との両立</p> <p>・長野パラリンピックの出場選手が、学校卒業後、経済的理由による競技継続断念や、競技活動の縮小（国内競技のみ）があった。収入が確保されないと競技に集中することができない。</p>
少年期のスポーツ活動について	<p>○勝利至上主義とスポーツ人口拡大の矛盾点</p> <p>・幼少期からスポーツに携わり、スポーツで健全なる精神と肉体を育成し、大人になってもスポーツと関係性を持ち、高齢になってもスポーツを行うことできる環境作りを謳うのならば、根本を議論する必要があるのではないか。</p> <p>○競技者や指導者のコンプライアンス</p> <p>・アンチ・ドーピング研修の重要性を少年期から研修に盛り込むべき。アマ・プロスポーツ問わず、決まりごとを守ることが必須と考える。</p> <p>○スポーツへの興味</p> <p>・親がスポーツに興味のないと、子どもも興味を持たないことが多い。</p>
ウィンタースポーツ振興について	<p>・ウィンタースポーツの振興は国をあげて推進しており、北海道がウィンタースポーツを推進する良いタイミングと考える。これを契機に北海道を盛り上げることができればと考える。</p>

